

「愛されるべき」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 1学期の終業式でもうひとつ伝えていました

終業式にいちばん伝えなかったことは最初に言いました。「生命を大切に」ということ。でも、他にも伝えたいことがあったので、私は付け加えてお願いしましたね。

できれば、この夏を「一皮むけた夏」にしてくれると嬉しいですね。それは学習の面でもかもしれませんし、部活動でもかもしれません。もちろん、人間的に「一皮むけた夏」、であれば言うことありません。要は、「洗練されたな」、あるいは「逞しくなったな」と思われたら勝ちです。うろこの下の層がぐっと成長をし、新しいうろことなり、最終的には表面の古いうろこをはがし落として、とってかわる、そういうイメージです。

学習の面や部活動の面で一皮むけるというのは想像しやすいですね。皆さんも友達を見ていて「あいつ、ぐっと伸びたな」と感じる時ってありますよね。あれです。おそらく本人は相当、努力をしたのでしょう。というか、努力や痛みなしで一皮むけるのは難しいですね。例えば、新しい何かを被るというのはあまりに簡単で、あまりに安易で、手っ取り早い方法です。確かに見た目は変わるかもしれませんが、でも、それはいつかのもので、本質的には何ひとつ成長していませんよね。一方、一皮むけるのは実に難しいことです。

皆さんがどれだけお金をつんでも買えない、どこにも売っていない、そんな非売品のうろこを身にまとい、美しい世界を生きてくれたら嬉しいですね。それではお互いにいい夏を過ごして、9月にお会いしましょう。

夏休みの昼下がり、開けたままの校長室の扉の隙間から顔を覗かせてくれるポロシャツ姿の生徒がひとり。「こんにちは」と気持ちの良い挨拶をしてくれます。私が「こんにちは」と返すと、続いて1人、また1人と次々に顔を覗かせては挨拶をしてくれます。野球部の生徒たちでした。

令和7年6月27日 特別号

「硬式野球部の皆さんへ」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一



7月5日は神戸高校硬式野球部の1回戦。どの部活にも負けにくい、人一倍、一生懸命に練習をしているし、人一倍、気持ちの良い挨拶をしてくれるチームなので、豊岡の地まで、僕は応援に行く気まんまんでした。しかし、7月4日からの出張が入ってしまい、豊岡に行けそうもありません。「どうか、明石で皆さんの雄姿が見られますように」7月5日はただただ、そう祈る日にします。野球部、がんばれ。

78 回生が甲子園をめざす最後の夏。応援に行く気まんまんでした私ですが出張が入り、球場に行けないことになりました。そこで左のような通信を1枚つくり、部員に渡しました。思いを伝えたかったのです。

試合は残念ながら敗戦ということで、願いは叶いませんでした。それでもこの昼下がり思ったのです。「小栗キャプテンをはじめとする78回生の野球部員の魅力はちゃんと引き継がれているな」と。それは先輩方の姿に学び、まさしく一皮むけた79回生、80回生の部員達の姿です。

『うまくいった時、ともに喜んでくれる人が沢山いる人生よりも、うまくいかなかった時にともに悲しんでくれる人が周りに沢山いる人生の方がいいよな。できることなら、そんな生き方をしてほしいな…』

私がまだ部活動の顧問をしていた頃、よく口にしていた台詞です。先日、20 年以上前に練習を見ていた生徒たちと時間をともにすることができました。その頃、部内には全国総体で7位に入賞する子も、デビュー戦の100mで20秒以上かかった子もいました。でも、強かろうがそ

うでなかろうが、愛すべき生徒達でした。それでもいつの間にか彼らは当時の私の年齢を超えてしまいました。

大人になった彼らから、子育ての悩みや働くうえでの戸惑いを聴ける贅沢な時間。でも、ひとりひとりが周りに大切にされて日常を過ごしているようで、それはこのうえもなく嬉しいことでした。

『将来にわたり、愛されるべき生き方を』それは大人から子ども達へのささやかな願いです。

